

トルクメニスタン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在トルクメニスタン日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	13	52	11,318	7	36	3,526	0	0	0	20	88	14,844

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

トルクメニスタンでは、2007年、ベルディムハメドフ現大統領の命により、アザディ名称世界言語大学（以下、アザディ大学）東洋言語・文学部に国内初の日本語専攻が開設された。当時、同大学にはロシア語をはじめとして、ロマンス・ゲルマン諸語（英、独、仏、西語）、東洋言語（アラビア語、ペルシャ語、トルコ語、中国語）の9つの言語専攻があり、日本語は新たに10番目に開設された。東洋言語・文学部の中では中国語（1995年開設）に次いで5番目に開設された言語である。その後、韓国語、ヒンディー語、トルクメン語及びイタリア語が加わり、2025年現在同大学には14の言語専攻がある。韓国語については、東洋言語・文学部の韓国語専攻のほかに、「世宗学堂」が学内で独自のクラスを開講している。

日本語専攻開設以降、約10年にわたり同大学が国内唯一の日本語教育機関であったが、2015年10月の安倍内閣総理大臣来訪が契機となり、翌2016年度からアザディ大学以外の高等教育機関と、中等教育機関でも日本

語教育を開始することが決定した。さらに、日本と理系科目に重点を置いた初等・中等一貫校「アシガバット140番学校」の新設も決まった。

これにより、2016年度よりアザディ大学以外に5つの高等教育機関、12の中等教育機関（5年生～12年生）と1つの初等教育機関（1年生～4年生）で日本語教育が始まった。各機関に配属された教師の多くは、主にアザディ大学卒業生たちである（彼らの多くはそれまで英語教師として初等・中等学校に勤務していた）。2015年まではアザディ大学のみで日本語教育が行われ、学習者数は50人程度、教師数は3～4人程度だったが、2025年12月現在では学習者数が推定で15,000人、教師数は88人程度となっている。

初等・中等教育段階では、2016年に1年生（初等教育初年度、140番学校のみ）と5年生（中等教育初年度、140番学校以外）で日本語教育が開始され、毎年順次日本語履修の学年が上がり、2025年度は1年生から12年生まで日本語教育が行われている。また、2020年度からは140番学校の新5年生向けの新たなシラバスが必要となり、140番学校以外の中等教育機関で使用されていた5年生向けの教科書（内容は1～4年生と同じもの）を改訂し、新たに140番学校専用の教科書作成を行うこととなった。2025年には新教育課程における初等・中等教育全ての学年（1年生～12年生）で日本語教育が実施されている。

一方、アザディ大学、オグズ・ハン大学を除く高等教育機関では選択科目として日本語講座を開講しており、半年ないし1年のみの履修であるため、学習者数は今後も横ばい状態が続くと予想される。オグズ・ハン大学は、予備教育という役割があるため、学習者数は今後も一定程度増加が予想される。アザディ大学に関しては、2020年度入学生から、それまでの5年制から4年制に修業年限が変更されたため、一時的に学習者数が減少することになる。

背景

トルクメニスタンでは、高品質で耐久性に優れた日本車や日本製家電製品が人気を博しており、アシガバット市内の半数以上の自動車は日本車（主にトヨタ）である。トルクメニスタン国民は全般に親日的であり、特に日本を技術大国の象徴として認識している傾向が強い。

2000年以降、豊富な天然資源により経済成長を続けるトルクメニスタンとハイテク技術を擁する日本は幅広い分野での協力が可能であるとの認識の下で、両国関係は、政治、経済を中心に急速に発展している。

政治面では、ベルディムハメドフ現大統領が2009年2月に同国首脳として初の訪日を実現。2013年5月には在日トルクメニスタン大使館が開設、同年9月と2015年3月の計3度にわたり大統領が訪日を実施している。それを受け2015年10月には安倍内閣総理大臣が日本の首相として初めてトルクメニスタンを訪問した。その際、政治、経済、文化など多岐にわたる分野における両国関係の強化及び協力の深化が確認された。翌2016年1月には、在トルクメニスタン日本国大使館（実館）が開設されている。

経済面では、2010年前後から日本企業の大型プラント建設や発電所建設の受注が相次いでいる。先述の安倍首相訪問時には事業規模総額2兆2千億円に上る案件に関する文書に署名が行われた。

このように両国の関係強化が進む中で、トルクメニスタン政府関係者もまた、日本語人材の育成に注目するようになった。2016年度からの日本語教育の急拡大には、こうした背景がある。

特徴

最も学習者数が多いのは中等教育段階であり、2025年の時点で全国12の学校で5年生から12年生が学んでいる。これらの学校では、英語、ロシア語に次ぐ第3外国語として日本語が履修されている。初等教育段階（1年生～4年生）では、アシガバット140番学校のみで日本語教育が実施されている。高等教育段階で日本語が主専攻として開講されているのはアザディ大学のみである。後述するオグズ・ハン記念トルクメニスタン

工科大学は全ての授業を英語または日本語で行うため、入学前に1年間の英語と日本語の予備教育が実施されている。その他の4大学では、選択必修科目として日本語講座が開講されている。

日本語学習理由・目的について、全国を対象とした大規模調査は行われていないが、日本語専門家がアザディ大学の新入生を対象に2017年より独自に「日本語学習の目的・理由」についての調査を行なっている。コロナ禍により一時的に専門家の派遣が中断したが、派遣再開後の2025年に調査を再開した。近年の傾向としては「日本に観光旅行をしたいから（78%）」が最も多く、「日本語そのものに興味があるから（75%）」「日本に留学したいから」（72%）と続き、具体的な目的を持って入学してくる者が増えてきている。

2025年現在、トルクメニスタンに進出している日本企業は少なく、日本語を活かした主な就職先は、大学や初等・中等学校の日本語教師である。しかし、今後両国の経済関係がさらに強化され日本企業の進出が盛んになれば、新たな就職先が開拓される可能性もある。

また、日本への留学は、コロナ禍以前は協定校との交換留学が行われていたが、2025年に筑波大学の国際交流協定校短期留学プログラムから推薦枠を得た。しかし、現在、他の留学手段としては文部科学省の「日本語・日本文化研修留学生」のみで、限定的である。日本との経済格差に加え、トルクメニスタン政府が大学生の国外への移動を厳しく制限していることもあったが、2025年はオグズハン工科大学より、筑波大学への私費による短期留学生在が誕生している。学生のみならず、高等教育機関からもできるだけ留学に行ってもらいたいという意識が少しずつ感じられるようになってきた。

最新動向

2025年度は、初等・中等各段階で履修学年が当初の予定通り拡大し、1年生から12年生までが履修している。（ただし、1年生～4年生の初等教育は140番学校のみ）2017年度に比べ履修クラスが増加した学校もあり、学習者数は軒並み増えている。ただ、日本語教育を新たに始めた学校はなく、12校にとどまっている。高等教育段階では、2025年末現在、7機関で日本語講座が設置されている。

アザディ大学では、2025年度は40人の新入生が入学した（2024年度は35人、2023年度は40人、2022年度は40人、2021年度は45人、2020年度は40人、2019年度は57人、2018年度は30人、2017年度は20人、2016年度は14人、それ以前は毎年10人）。これは、国内の日本語教育が今後拡大していくのに伴い、相当数の教師を輩出する必要があるとの理由によるものである。しかし、実際には大幅な教師の拡充は見られず、教師不足の状態が続いている。結果として国内の日本語教育全体の質の向上には課題が多い状態にある。

また、JETRO「ビジネス短信」によれば、トルクメニスタン政府は観光産業に力を入れてきており、2019年5月にはベルディムハメドフ大統領が日本人観光客向けの入国ビザ発給の手数を軽減もしくは免除する決定に署名した。さらに2025年4月、トルクメニスタンでは移民法の改正が正式に施行され、電子ビザ制度の導入が発表された。トルクメニスタン航空は同年7月より、首都アシガバートと韓国のソウル間の直行便を開始した。そして、同年12月には「中央アジア+日本 対話」が開催され、トルクメニスタンを含む5か国とフォーラムならびに各国首脳会談が行われた。これを通して相互の連携強化やパートナーシップの深化が確認されている。今後、徐々に日本人観光客が訪問しやすい環境が整ってくれば、観光業での日本語人材が求められてくる可能性がある。

トルクメニスタンでは、ここ数年の日本語学習者の増加に伴い、さまざまな需要から日本語能力証明として日本語の資格試験の重要性が高まってきていたが、日本大使館を中心に実行委員会が設立され、トルクメニスタン初の日本語能力試験（JLPT）が2020年12月に実施された。その後、2025年12月までに11回のトルクメニスタン国内での試験が行われており、受検者数も着実に伸びている。

教育段階別の状況

初等教育（1年生～4年生）

アシガバット 140 番学校の 1 校のみで日本語の授業が行われている。当該校では日本語は必修科目であり、週に 2 コマ（1 コマ 45 分、ただし 1 年生は 35 分）開講されている。

中等教育（5年生～12年生）

全国の 12 の中等教育機関で日本語の授業が行われている。下表のように首都アシガバットに 4 校、アハル州に 2 校、バルカン州に 3 校、ダショグズ州、レバップ州、マリ州に 1 校ずつとなっている。新設校であるアシガバット 140 番学校以外の 11 校は、コンテストやテストなどで優秀な成績を収めた実績を持つ学校が、教育省学校局によって選出された。各校とも日本語の授業は週に 2 コマ（1 コマ 45 分）行われている。2025 年度は 5 年生～12 年生が学んでいる。（なお、2020 年度は新型コロナ対応のため、午前・午後の 2 部制だった時間割が 3 部制になり、クラスの人数も最大 15 名に制限、授業時間も 30 分に短縮されていた。）

2025 年末現在の日本語教育実施校及び教師数

No.	州	都市	学校名	教師数
1	アシガバット		37 番学校	5
2			61 番学校	5
3			89 番学校	5
4			140 番学校	16
5	アハル	ギョクテペ	28 番学校	1
6		サラフス	17 番学校	4
7	バルカン	セルダル	10 番学校	2
8		バルカナバット	15 番学校	7
9		トルクメンバシ	13 番学校	4
10	ダショグズ	ダショグズ	28 番学校	4
11	レバップ	トルクメナバット	35 番学校	2
12	マリ	マリ	23 番学校	10

高等教育

2016年度より、先行するアザディ大学に加え、石油ガス大学、運輸交通大学、国際関係大学、国際人文・開発大学、オグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学で日本語の授業が開始された。なお、トルクメニスタンの大学のほぼ全ては首都のアシガバットにある。

2025年未現在の日本語教育実施高等教育機関と教師数

No.	大学名	教師数
1	アザディ名称世界言語大学	7
2	オグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学（学部） （予備教育）	9 12
3	国際人文開発大学	1
4	石油ガス大学	1
5	情報科学大学	2
6	国際関係大学	1
7	経済経営大学	0

オグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学は、2015年10月の安倍首相訪問が契機となり2016年9月に新設された、日本型カリキュラムによる工科大学である。開設にあたっては、筑波大学が全面的に協力した。日本語は、予備教育の1年間、そして入学後の4年間実施される。学部では全ての授業が日本語または英語で行われているが、大部分は英語での授業である。

国際人文・開発大学には、かつて、2015年の安倍首相の訪問をきっかけとして、東京外国語大学 Global Japan Office が設置されていたが、現在は確認できていない。

アザディ大学、オグズ・ハン大学を除く4機関では、日本語は選択必修科目として1年ないし半年間のみ履修されている。経済経営大学は2025年12月時点で、日本語担当教員が長期休暇のため、日本語は開講されていない。

学校教育以外

アザディ大学に隣接する言語センターで日本語教育が行われている。月曜から土曜まで毎日16:00～18:00と18:00～20:00の2つの時間帯に授業があり、中等学校生、大学生、社会人が学んでいる。授業は各クラスとも週に3回（月水金または火木土）、3か月、1回120分で行われている。2025年12月時点、受講生がいないため、日本語コースは開講されていない。

この他にアザディ大学近隣には、民間の kamil Bilim okuw mekezi という英・露・独・中を対象とした言語コースが2021年よりオープンしている。日本語コースは2025年9月に開講し、週3回、3か月、1回135分で

行われていた。日本語講師は当時のオグズハン工科大学の日本語教員が兼任していた。受講生は 15 名で、使用教材は『みんなの日本語 初級Ⅰ』（スリーエーネットワーク）、すべてアザディ大学の日本語専攻 1 年生の学生であったとのことで、大学の授業の補習的な役割を果たしていたようである。ただし、その 3 か月コースが終了した 2025 年 12 月時点では、受講希望者が少なかったため、日本語コースは開講されていない。

また、これとは別にイシュノカドゥと呼ばれる co-working スペースの下位組織であるエデュケーションノカドゥという民間の言語コースの中で、2025 年 5 月に日本語コースが開設された。受講生は計 6 名で、高校生や 20 代、社会人がいるとのことである。これらの学習者の学習目的は「日本の大学に留学したい」というのが主なものである。授業は週 2 回、それぞれ 120 分行われており、使用教材は『みんなの日本語 初級Ⅰ』（スリーエーネットワーク）である。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

2013 年度（2013 年 9 月）から、以下の通りの教育年数に改められた。

初等教育：修学年数 4 年（1 年生～4 年生）、対象年齢満 6 歳で入学～9 歳

前期中等教育：修学年数 6 年（5 年生～10 年生）、対象年齢 10～15 歳

後期中等教育：修学年数 2 年（11 年生～12 年生）、対象年齢 16 歳～17 歳

義務教育期間は上述した累計 12 年間。

ただし、日本の教育制度とは異なり、1 年生から 12 年生まで一貫して同じ学校で学ぶというのが一般的である。

教育行政

初等・中等教育機関、大学を含め全て省の管理下に置かれ、試験日程等の細部に亘り担当省に決定権がある。

2016 年に新たに開学したオグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学はトルクメニスタンアカデミーの直轄となっているが、その他の大学は全て教育省直轄または関係する他の省と両方の管轄となっている（例えば、国際関係大学は外務省と教育省、石油ガス大学は石油ガス産業鉱物資源省と教育省など）。

一例として、アザディ大学は教育省の直轄であり、初等中等教育機関の状況により教師の需要度などの観点から、大学の入学者数などを決定することになる。

言語事情

基本的には多くの学校ではトルクメン語による授業が行われているが、ロシア語による授業が行われている学校も少なからずあり、生徒はどちらの言語で学習したいかを選び入学する学校を決めることができる。また、一部トルコ語で授業をする学校もある。その影響で、大学の新生はロシア語・トルクメン語のどちらかが第一言語となっているが、教室言語は、原則としてトルクメン語である。

外国語教育

トルクメニスタンでは、義務教育課程においてはトルクメン語以外の言語ではロシア語と英語が必修科目となっている。

外国語の中での日本語の人気

外国語の中では、トルコ語やロシア語及び英語の人気が高い。

トルコはトルクメニスタンと地理的に近く、トルコ文化がトルクメニスタンに深く浸透している。また、トルクメン人が査証なしで渡航が可能な国ということもあり、トルコ語が多くの人に学ばれている。

トルクメニスタンは旧ソ連構成国の1つであり、国内で広くロシア語が通じることから、ロシア語も多くの人々によって学ばれている。家庭環境によりロシア語が第一言語の児童もおり、社会で通用する範囲が広いこと、また公文書で用いられるケースが多いことなどを考えれば、ロシア語は外国語というより第二言語の位置づけに近い。

英語は、トルクメニスタンの義務教育課程の必修科目であり、英語教師としての需要もあることから、多く学ばれている。

2016年9月以降、学校教育に日本語と中国語が導入され、上述した3言語以外にドイツ語、フランス語、日本語、中国語が第二または第三外国語として学ばれているが、これらの中では、相対的に日本語の学習者数が多い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

トルクメニスタン教育省の指示により、JFの日本語専門家、指導助手、現地トルクメニスタン人日本語教師が共同で開発・編集した小学校用教科書『にほんご1』（1年生用）と『にほんご2』（2年生用）『にほんご3』（3年生用）『にほんご4』（4年生用）を用いている。教科書は基本的に生徒に貸与となるので、学年が変わると返却しなければならない。そのため教科書への書き込みなどが一切できない。そのため、練習問題等は別途ワークブックを作成するなどの工夫が必要となる。教科書は3年毎に改訂、再出版される。（改訂作業は、原則として教科書作成メンバーが行う）

中等教育

上述の小学校用教科書に引き続き中学校用教科書も、JFの日本語専門家、指導助手、現地トルクメニスタン人日本語教師が共同で開発・編集したものをを用いている。（ただし、コロナ禍の折、JF日本語専門家不在中は、一部の教科書が現地教員のみで作成されたものもある。）2025年時点で12年生用までのすべての教科書が作成された。

教科書の扱いについては初等教育と同様。5年毎に改訂、再出版される。（改訂作業も、教科書作成メンバーが行うのが原則である。）

高等教育

アザディ大学では、下記の教材を主に使用している。その他の日本語教材を適宜参照しながら、教師自作の教材も併せて使用している。オグズ・ハン大学の予備教育でも『みんなの日本語』が使用されている。

- 『みんなの日本語 初級Ⅰ』（スリーエーネットワーク）
- 『みんなの日本語 初級Ⅱ』（スリーエーネットワーク）
- 『まるごと 日本のことばと文化 入門～初中級』（三修社）

学校教育以外

アザディ大学に隣接する語学センターやその他の民間の言語コースでは『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）を用いている。

IT・視聴覚機材

初等・中等学校では教室にコンピューターとプロジェクターが備え付けのところが多く、授業では教科書付属の音声教材の使用、教師が準備した写真等を見せながらの授業も実施されている。大学も設備と利用状況は初等・中等学校とほぼ同様である。2023年、アザディ大学内に在トルクメニスタン日本大使館の「草の根文化無償」（「アザディ大学日本語教育機材整備計画」）による支援事業で、新たにマルチメディア対応の教室が2ヵ所設置された。（2025年12月の時点では、教室内のインターネット接続環境が整っていないため、動画資料やプレゼンテーション資料の提示が必要な場合は、PC及びUSB経由で利用することになる。）

初等中等学校でも大学でも、教室にインターネット接続環境がある施設はごく少数であるため、その場での調べ学習や動画等の利用、双方向のコミュニケーションを取り入れた授業は期待できない。

5.教師

資格要件

初等教育

【中等教育】の項参照

中等教育

初等教育と中等教育の教師の資格に違いはない。教師の能力を証明するディプロマを取得した者が教師となることができる。ディプロマを取得するためには、大学・高等教育機関で担当科目を専攻する課程を修了し、卒業後2年間の実務（義務労働）を終えなければならない。現在、日本語教師のディプロマを取得できるのはアザディ大学卒業生のみである。

高等教育

アザディ大学の日本語学科では、トルクメン人教師7人が授業を担当している。2020年度入学生から、それまでの5年制から4年制に修業年限が変更されたことに伴い、4年制で卒業した者は大学教員になる要件として、大学院で教授法関連の学位（修業年数1年）を修めることが新たに加えられた。このため、今後大学教員になることは以前より狭き門となる一方で、より専門的な知識を身に付けた教師が大学で教鞭をとる日が来るとい

う期待もできる。

学校教育以外

アザディ大学に隣接する付属言語センターの講師は同大学の講師以外でも務めることができるが、2023 年と 2024 年には日本語については他に人材がいなかったため、同大学の日本語講師が担当していた。民間の言語センターについても同大学の卒業生が講師を務めている。

日本語教師養成機関（プログラム）

アザディ大学の日本語学科を卒業後に授与されるディプロマには日本語教師の能力を備えているという記述があり、同学科の課程が実質上の日本語教員養成プログラムとなっている。アシガバット市内にはアマン・キケロフ名称教員養成学校という高等教育機関があり、外国語及び外国文学のコースもあるが、ここに日本語は含まれていないため、アザディ大学がトルクメニスタン唯一の日本語教師養成機関となっている。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

2025 年 12 月現在、トルクメニスタンにいる日本語ネイティブ教師は、JF 専門家の 1 名のみで、アザディ大学で授業を担当するほか、国民教育研究所で初等中等教育用の教科書制作にあたっている。

なお、アザディ大学には日本語専攻開設当時から 2016 年 8 月まで日本人教師が直接雇用されていたが、それ以降雇用実績はない。

教師研修

2015 年度より、初等・中等教育機関の日本語教師向け研修が行われている。教育省が日程と参加者を決定、アザディ大学で講師を選定し、担当講師が中心となり研修内容を決定する。2015 年度はアザディ大学において 4 回の研修が実施された。2016 年度以降は、国民教育大学においても実施され、担当講師は JF 上級専門家と日本語指導助手が中心となっていた。2025 年は、1 月にアザディ大学で、また 6 月に国民教育研究所で、それぞれ 1 回行われた。

大学講師対象の研修は、2015 年度までは年に 1 回実施されていた。講師は JF 派遣でカザフスタンに赴任していた専門家が出張して務めた。

2016 年度以降コロナ禍による派遣停止までは、トルクメニスタン派遣の JF 上級専門家と指導助手が講師を務め、年に 1~2 回実施されていた。2025 年は、アザディ大学で日本語教育セミナーという形で一週間行われ、そのうち JF 専門家が 2 日間を担当した。

現職教師研修プログラム（一覧）

トルクメニスタン中等学校日本語教師研修

トルクメニスタン高等教育機関日本語教師研修

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは存在しない。国内のトルクメニスタン人日本語教師はほぼ全員がアザディ大学出身者で、卒業生ネットワークに近いものがもともとある。しかし、日本語教師としての職務上の情報交換や自主的な研鑽につながるようなネットワーク化の動きはまだない。現状では、トルクメニスタンの公的機関は全て縦割りの行政であり、初等中等教育機関は教育省が、大学は政府の各省庁の管轄となっており、教師が自主的に集まって活動するには、事前に教育省や関係機関に許可を得なければならない。一方で、日本人（日本語ネイティブ）教師は、全員が任期付きの派遣で来ているため、長期間現地に根差した活動を続けていく人材にはなり得ない。また、上記の理由からネットワークの中心となって活動するにも、その都度所轄関係機関からの許可を得なければならない等様々な障壁がある。

最新動向

2025年9月に在トルクメニスタン日本大使と当地の教育大臣との面談が実施された。この面談において「現地の日本語教師会の結成のための許可」について取り上げられた。教師会の結成については、国の許可は必要ではなく、是非進めてほしいとの回答を得たことを受け、更なる学校訪問を通しまずは現地教師の連絡先を収集し、その後、情報共有の場として、グループを立ち上げ、少しずつ活動の場を増やすことにより、教師会の設立に繋げていくことが求められている。

7.日本語教師等派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語専門家

アザディ名称世界言語大学とトルクメニスタン国民教育研究所の併任 1名

※国際交流基金派遣の1名は、執務室所在の関係上トルクメニスタン国民教育研究所で専門家業務を行い、授業や教師研修など、必要に応じてアザディ大学で勤務するという体制で業務にあたっている。

その他からの派遣

なし

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

2016年度の日本語科目開講に向けて、2015年度中に英語のガイドラインを参照し日本語のガイドラインが作成された。しかしながら、到達レベルの設定、学習時間、進捗の見直しをする必要があったため、2016年度に上級専門家と日本語指導助手が中心となって改訂作業が行われた。2025年の時点でも、このガイドラインが「指導要領」として使用されている。

中等教育

初等教育と同様

高等教育

高等教育に関しては共通のガイドラインはない。2019 年入学生までのアザディ大学で行われている日本語授業のカリキュラムは以下のとおり。(年度によって若干の違いがある)

講義名	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年
日本語演習	462	484	286	228	
日本語音声学		32			
語彙論			72		
文法論			48		
翻訳・通訳			54	96	326
日本語教授法			64		32
日本事情				24	
日本語史				48	
特別授業				156	58
文体論					86
日本語・トルクメン語対照					130

アザディ大学では 2020 年修業年限が 4 年となるに伴って日本語専攻のカリキュラムが改定されている。そのため、改定前に比べ、基本的な日本語学習時間が少なくなっている。2025 年時点でのカリキュラムは以下の通り。

講義名	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
日本語演習 (総合日本語)	272	172	136	72
日本語音声学	68			
日本語の文字	104			

講義名	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
日本語作文	32			
日本語文法		102	32	
日本語の語彙論		36		
日本事情			32	
言語学（日本語学）		16	18	
外国語教育方法論（日本語教授法）				64
日本の文学			18	
日本語史			18	
リスニング&スピーキング			32	
リーディング&ライティング				36
翻訳				56
日本の文化				28

9. 評価・試験

評価・試験の種類

トルクメニスタンでは 2020 年まで日本語能力試験（JLPT）が実施されておらず、受験希望者がいる場合には、隣国での受験を余儀なくされたが、学生の出国制限との関係で個人の自由な受験の機会が与えられていなかった。しかし、2020 年 12 月にトルクメニスタン初の日本語能力試験実施が行われてからは、順調に受検者数が伸び、JLPT の認知度も高まっている。

2025 年 12 月現在、大学入試等での日本語科目は設置されていない。

10. 日本語教育略史

2007 年

アザディ名称世界言語大学東洋言語・文学部に日本語専攻開設

2012 年 9 月

アザディ名称世界言語大学の女子学生の日本政府（文部科学省）奨学金留学生試験への受験がトルクメニスタン政府から初めて認め

られた

2013年9月	筑波大学とアザディ名称世界言語大学間で学術協定締結
2015年10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 初等、中等学校での日本語科目導入の決定 ● 東京外国語大学と国際人文開発大学間で国際学術交流協定締結
2016年9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 初等、中等学校での日本語教育開始 ● 石油ガス大学、運輸交通大学、国際関係大学で日本語授業開始 ● 国際人文開発大学に東京外国語大学が日本語教員1人を派遣し、Global Japan Office を開設 ● 国際交流基金日本語上級専門家1人と日本語指導助手1人をアザディ名称世界言語大学とトルクメニスタン国民教育大学併任で派遣開始
2016年10月	筑波大学とオグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学間で日本語予備教育支援事業の契約締結
2016年11月	オグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学に筑波大学派遣の日本語教員2人着任
2020年12月	トルクメニスタン初の国内日本語能力試験実施
2022年12月	コロナ禍で中断していた国際交流基金日本語上級専門家及び日本語指導助手の派遣再開
2023年9月	在トルクメニスタン日本大使館の「草の根文化無償」(「アザディ大学日本語教育機材整備計画」)による支援事業で、アザディ大学東洋言語文学部棟内にマルチメディア対応教室設置・運用開始
2025年9月	筑波大学 国際交流協定校 短期留学プログラム再開 アザディ大学より1名及びオグズハン記念工科大学より3名が留学

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
 なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、**全角@マークを半角@マークに変更してください**)